

阿波踊り・カレー試食・花火など 楽しいまじり
サマーフェスティバル
 桑野市民グラウンド 桑野サマーフェスティバル実行委員会



桑野サマーフェスティバル (桑野地区)

8月24日、夏を彩る祭典「第21回桑野サマーフェスティバル」が桑野グラウンドで行われた。小雨がぱらつくあいにくの天気にもかかわらず、大勢の人でにぎわった。会場には、親子で楽しめる遊びの屋台がずらりと並び、カレーライスが無料で振る舞われた。今年のテーマは「和と輪で広げようつなぐ力」。夢や希望を書いて飛ばす風船手紙や、地域を題材にした〇×クイズに、子どもたちの心が弾む。雨雲に覆われた暗い空とは対照的に、明るい笑顔が広がった。

祭りの前身は、昭和63年に始まった「いかだフェスティバル」。地域の子どもたちに川遊びを楽しんでもらおうと桑野青年会が企画した。桑野川にいかだを浮かべて水辺の活動を楽しんだ。しかし、天候に左右されることが多かったことから、平成6年に会場を桑野グラウンドに移した。



回を重ねるごとに協力団体も増え、今では体育協会や婦人会のほかに、企業や学校なども手を携える。「オール桑野」のイベントとして親しまれている。長年、華麗な踊りと精錬された鳴り物でイベントを盛り上げてきた達粹連の二宮恒雄連長(72歳)は、「自慢の阿波踊りで恩返しをしたい。雨が降ろうと、地元のためなら喜んで踊りますよ」と熱っぽく語る。関わり方は違っても、思いはみんな同じだろう。毎年1000人を超える人が足を運んでくれるというのもうなずける。

阿瀬比、山口、桑野、内原町の人々が祭りですべてになる。そんな「地域の和」を、夜空を彩る大輪の花火に重ねてみた。人が集い、人が作り、人が育てる桑野サマーフェスティバル。ふるさととのぬくもりに触れた一夜になった。